

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

大門中学校区	校番 39	福山市立 旭丘小学校
最終更新日	2026 年（令和 8 年）3月2日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
・子ども主体の活動を推進する。 ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。	・思考力・表現力に課題がある。 ・他者理解の醸成が十分できていない。 ・運動やスポーツに親しむ児童生徒が増えてきたが、運動習慣の活発・非活発群に二極化が見られる。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の職業を選択し、表現できる力をもった児童生徒
		中学校区として統一した取組等	・「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 ・生徒指導の3機能を生かした生活づくりを進める。 ・運動に親しむ取組、体力向上の取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。

III 自 校

ミッション					
一人一人のよさを仲間と共に輝かせる子どもを育て、地域に誇れる学校を創る					
学校教育目標					
自ら考え 共に輝く					
現 状					
＜児童生徒＞ ・「行事や特別活動などの取組において、自分で考えて行動できた」児童 84.3% ・引き続き、児童が主体的に取り組む活動を計画、実践することを積み重ね、自己指導能力を育成するための取組を継続する必要がある。 ・「相手のよさ・自分のよさを見付けている」児童 89.7% ・体力向上のための自己目標をもって取り組む児童を育成するための場の設定等の取組を進め、「場を活用し、運動に親しむことができた」児童 86% ・平日1日当たりのテレビゲーム（携帯・スマホ等）の使用時間が2時間以上の児童 43% ＜授業＞ ・算数科における単元末テスト知識・技能 79 点、思考力・判断力・表現力 65 点。 ・教育の質向上に向けた教材研究日を週1回設け、授業改善に取り組む等、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。 ・基礎学力の定着に向けた旭活タイムの内容の見直しを進めるとともに、家庭学習の内容や取り組み方の見直しを進める。					
育成する力 資質・能力	課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性・積極性	共感力	
めざす 子ども像	低 学 年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して順序立てて表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
	中 学 年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気づき、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	高 学 年	自ら設定し課題について、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、説明したり、適切な方法で表現したりしている。	相手や場の状況に応じて、自分で目標をもち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。
研究	教科等	算数科、道徳科、音楽科			
	主題・ 内容等	基礎基本の学力を定着させ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～「反復学習」と「振り返り」に重点をあてて～ 旭活タイムや適応題を通しての「反復学習」を取り入れるとともに、学習過程を学習者自身に自覚させる「振り返り」を充実させる。			
めざす授業の姿		・反復学習で自信をつけ、児童が「学びが楽しい」と思える授業 ・学習過程を振り返り、児童が「力が付いた」と実感できる授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 旭丘小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評価	達成 評価	総合 評価
6	基礎基本の学 力を定着さ せ、論理的思 考力・判断 力・表現力を 高める。	★	継 続	各学年における 基礎基本の定着 を図る。	・旭活タイムや授 業において、漢 字や計算など 反復学習を図 る。 ・振り返りの視点 を明確にし、学 びを自覚する ことができる ようにする。	・国語科、算数科単 元末テスト平均 80点以上にする。 ・児童アンケート 「学習したこと を自分の言葉で 振り返ることが できる」80パー セント以上にする。	・国語科 【知識・技能】 学校平均 78.4 【98%】 【思・判・表】 学校平均 83.2 【104%】 ・算数科 【知識・技能】 学校平均 80.3 【100%】 【思・判・表】 学校平均 72.1 【90.1%】 ・児童アンケー ト「学習した ことを自分の 言葉で振り返 ることができる」75.9% 【94.9%】	2	2	・引き続き、旭 活タイムや授 業において、 反復学習を行 い、問題の解 き方や考え方 について丁寧 に指導する。 <				

					立て、達成できるようにする。	を80%以上にする。(教師の見取り)	・1学期間で2/4マス、4/9マス達成できる児童 88.5 % 【110.6%】			・毎月忘れず振り返りを行うことができるように教員への周知の徹底を行う。	・1学期間で2/4マス、4/9マス達成できる児童 84.6% 【99.5%】				・自己指導能力を高めるために、ふりかえりカードを活用し、自己理解、自己受容ができる振り返りを継続して行っていく。
2	運動に親しみ、主体的に体力を向上させる児童を育てる。		継続	運動に親しみ、体力向上のための自己目標をもち取り組む児童を育成する。	・身体を動かして遊ぶことができるように、委員会活動等を通じて啓発する。 また、雨天や猛暑でも運動することができるよう、多目的ルームに体力向上の特設コーナーを増設する。 ・実技研修(年2回)を実施し、授業改善を図り授業力の向上を図る	・休憩時間に身体を動かして遊ぶ児童の割合 85% ・体力向上に関わる実技研修を受けて、授業改善を行うことができた職員の割合90%	・休憩時間に身体を動かして遊ぶ児童の割合 63.0 % 【74.1%】 ・体力向上に関わる実技研修を受けて、授業改善を行うことができた職員の割合 91.7 % 【101.9%】	2	2	・学級や学年単位で外遊びをする日を設定し、意図的に体を動かす機会を仕組んでいく。 ・2か月に1度の周期で、今後も実技研修を行い、児童の体力向上、授業力向上に向けて取り組む。	・休憩時間に身体を動かして遊ぶ児童の割合 69.8%【82.1%】 ・体力向上に関わる実技研修を受けて、授業改善を行うことができた職員の割合 80.0%【89.9%】	2	2	3	・週単位で外遊びを行う時間を設定する。 ・集団遊び、用具、遊具を使った遊びを提案することで、体を動かすきっかけをつくる。 ・継続した実技研修と、内容の充実を図り取り組んでいく。
3	働き方改革の意義を理解し、教育の質の向上を図る。	★	継続	業務内容を精選しながら質を高め業務を遂行するとともに、教職員の強みを生かした取組を進める。	・教職員一人一人が、子ども主体の授業の実現に向けた自己課題を設定し、授業交流すること、授業改善を進める。	・授業づくりにおける自己課題に関わる取組が、児童の成長につながっていると実感できる。肯定的評価90%以上。	・授業づくりにおける自己課題に関わる取組が、児童の成長につながっていると実感できる。肯定的評価 100 % 【111.1%】	4	4	・教職員間での授業参観や取組交流の場を月1回以上設定する。 ・課題把握の共有とカリキュラムマップの見直し改善を行い、短期・長期の取組改善を今後も進めていく。	・授業づくりにおける自己課題に関わる取組が、児童の成長につながっていると実感できる。肯定的評価 92.8% 【103.1%】	4	3	4	・学びづくり部主体で授業交流を行い、授業力向上に努めた。 ・研究主任を中心に、授業づくりポートフォリオの見直しや共通認識を図った。次年度に向け、カリキュラムマップの修正を行っていく。

3	保護者・地域から信頼される地域とともにある学校をつくる。	継続	地域とつながり、保護者からの満足度の高い教育活動を進める。	・教育活動や子ども・教職員の頑張りや成長を、学校だよりやHP等で、タイムリーに発信する。 ・地域の人・物・事を活用し、地域とのつながりを強化する。	・保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価を95%以上。 ・全学年、年間1回以上、地域の人・物・事を活用した取組を進める。 ・「地域を学んだり、地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」と答える児童。80%以上	・保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価 90.7%【95.5%】 ・全学年、年間1回以上、地域の人・物・事を活用した取組を進める。3/6学年実施（残りは10月以降実施予定）【50%】 ・「地域を学んだり、地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」と答える児童。80.7%【100.9%】	4	3	・教育活動の様子や教職員の頑張りや成長を、学校だよりやホームページで随時発信していく。 ・児童の学習の様子を中心に発信し、保護者・地域との連携を図る。 ・地域貢献や地域での役割等を意識した学習の振り返りを継続する。	・保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価 93.4%【98.3%】 ・全学年、年間1回以上、地域の人・物・事を活用した取組を進める。6/6学年実施【100%】 ・「地域を学んだり、地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」と答える児童。80.6%【100.8%】	3	3	3	・教育活動の様子や教職員の頑張りや成長を、学校だよりやホームページで随時発信していく。 ・コミュニティースクールを意識した人・物・事の利用を図る。 ・児童を通して学校と地域とが繋がる場を増やし、地域との関係強化に努める。
---	------------------------------	----	-------------------------------	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。